

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心 (LOVE & PRIDE) にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進と規範意識の向上により、豊かな人格を育む。

### 2 中期的目標

- 1 自信を持てる学力の向上と高い目的意識による進路実現が可能となるよう教育の質の確保と向上をめざす
  - (1) 将来構想委員会の提言に基づき、生徒一人ひとりが自信を持てる基礎基本の定着と活用型学力の獲得をめざす。
    - ア 生徒一人ひとりの進路実現に対応可能な学力を向上させるため、実態を正確にリサーチしながら、わかりやすく自信がつく授業を行う。英語専門コース各授業を充実させ、指導内容の研究を通して、アクティブラーニングやICT機器を活用した学習活動の導入等、英語科のみならず各教科の授業力の向上をはかる。公開授業や各種の研修、研究会への参加により生徒の学習への意欲や授業満足度を高める方策を研究する。  
※自己診断の授業のわかりやすさにおいて平成29年度までに80%の肯定率をめざす。(H26年度：74%)  
※各講座でのアクティブラーニングの導入を平成29年度までに各講座の総時間に占める割合を10%となることをめざす。
    - イ 放課後学習や週末課題をきっかけとして家庭での学習習慣をつけさせる。  
※教育産業の調査による2年生の家庭学習の平均時間を平成29年度までに1時間以上とする。
    - ウ 英語検定等、各種検定試験の事前講座などの対策指導のための体制を整備し受検者・合格者を増やす。  
※平成25年度1年生の約80%が受検。平成26年度は1年生の92%、全校生徒の約40%が受検 毎年5%増をめざして、平成29年度には全校の約50%が受検、うち約60%の合格をめざす。(目標は1年：3級、2年：準2級、3年：2級)
    - エ 国際交流活動で英語やコミュニケーション力、国際感覚等を高める。(外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。)
  - (2) 将来構想委員会の提言に基づき、学年進行に応じた適時な進路指導により、夢を抱かせ、志を高く持たせ、生徒個々に合った進路実現を保障する。
    - オ 進路指導部と学年の更なる連携で、組織的な進路指導機能の充実。計画的・継続的な進路指導で、主体的に自分の進路開拓を考え、将来の社会貢献できる具体的な自己のイメージを持たせる。※京産大、龍谷大の合格者を平成28年度末に30名、平成30年度末には50名をめざす。
- 2 教職員のきめ細やかな対応とチームワークにより、統一感のある生徒指導を展開し、規律ある、かつ安全安心で楽しい学校生活を保障する。
  - (1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。
    - ア 遅刻指導、服装指導、授業規律の徹底で、規範意識を育成し、落ち着いた教育環境をつくる。  
※遅刻数は平成25年度が約1700件、平成26年度が約1500件 毎年10%減をめざし、平成29年度には1000件以下をめざす。  
※自己診断のルールを守ろうとする生徒は、25年度90%、26年度95% これを維持する。
  - (2) 生徒相談体制の充実により生徒が安心して高校生活を送ることができるような教育環境をつくる。
    - イ 教職員間の生徒に関する情報共有を促進し、校外のサポート機関とも連携し、心に悩みや不安を持つ生徒が安心して学校生活を送ることができる組織体制を充実させる。事例研究会等の開催により、教員の「気づく力」を向上させ、早期に生徒相談体制につながるように努める。
  - (3) 来校者や地域の方へのあいさつを励行する。また、地域で開催される行事等への積極的な参加により、社会貢献できる力を高めるとともに地域からの信頼を獲得し、自己効力感や自己肯定感の育成をめざす。
    - ウ 集会等であいさつの重要性を説き、「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだす。地域コミュニティで開催される行事や近隣の企業等のイベントに参加し、「地域の中の津田高」を意識する。
- 3 学校行事・部活動の充実による、愛校心あふれる学校づくりを進める。
  - (1) 伝統ある学校行事により主体性や協調性を育成する。
    - ア 学年進行により生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒に自信をつけさせ、自己効力感や自己肯定感を高める。  
※学校行事の満足度は、25年度85%、26年度83% これをさらに上昇させ平成29年度には90%をめざす。
  - (2) 生徒が主体的に活躍できるような魅力ある部活動を振興する。
    - イ 部活動運営の主体的活動を通じて、社会性やリーダーシップ、組織運営力を身につけ、逞しい人間力を育成する。  
※部活動入部率は、25年度の1年生当初が約71%、26年度77% 毎年向上させ、平成28年度には75%をめざす。
    - ウ 中学生の体験部活動や合同練習等の交流を推進する。
- 4 広報チームを核に生徒、教職員が一体となって「面倒見のよい津田校」を広報し、地域からの信頼度を高める。
  - (1) 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月 実施分]	学校協議会からの意見																																								
<p><b>主な項目における肯定率 (%)</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校への満足度 (学校は楽しい・通わせてよかった)</td> <td>76.4</td> <td>95.8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>授業への評価 (わかりやすい・学力が伸ばされている)</td> <td>73.9</td> <td>89.7</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>家庭学習促進への評価</td> <td>-</td> <td>86.6</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>進路指導への満足度 (役立つ・満足・制度整備)</td> <td>77.0</td> <td>90.6</td> <td>91.7</td> </tr> <tr> <td>生徒指導への評価 (ルールを守っている・声掛けしている)</td> <td>94.1</td> <td>96.7</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>人権教育への評価 (意識が高まった・きちんと指導)</td> <td>79.2</td> <td>91.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>部活動・行事への評価 (盛ん・熱心に指導)</td> <td>88.1</td> <td>93.0</td> <td>91.7</td> </tr> <tr> <td>教育相談への評価 (相談できる先生・体制整備)</td> <td>52.6</td> <td>-</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>広報・情報提供への評価 (HP・メールなど)</td> <td>-</td> <td>80.5</td> <td>91.7</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に対する満足度は、生徒平均 76.3%だが、3年生は 81.5%であり学年の進行とともに上昇している。保護者の満足度は非常に高い。</li> <li>・授業への評価も2年生(生徒)では、69.7%(昨年)→78.8%(今年)と9ポイントの上昇を見せるなど、取り組みの効果が出ている。</li> <li>・進路指導への生徒の評価が、83.7%(昨年)→77.0%(今年)と下がっており取り組みの改善が求められる。</li> <li>・生徒指導については、生徒・保護者ともにルールを順守している意識が高く自尊心・自己肯定感が育まれている。</li> <li>・部活動・行事について満足度は高く、かつ学年進行で高くなっている。</li> <li>・教育相談について生徒の肯定率が低い。重い悩みを抱えた生徒が少ないと値が低くなる項目ではあるが、今後も相談体制の充実を図りたい。</li> </ul>	内容	生徒	保護者	教員	学校への満足度 (学校は楽しい・通わせてよかった)	76.4	95.8	-	授業への評価 (わかりやすい・学力が伸ばされている)	73.9	89.7	-	家庭学習促進への評価	-	86.6	-	進路指導への満足度 (役立つ・満足・制度整備)	77.0	90.6	91.7	生徒指導への評価 (ルールを守っている・声掛けしている)	94.1	96.7	87.5	人権教育への評価 (意識が高まった・きちんと指導)	79.2	91.5	-	部活動・行事への評価 (盛ん・熱心に指導)	88.1	93.0	91.7	教育相談への評価 (相談できる先生・体制整備)	52.6	-	91.3	広報・情報提供への評価 (HP・メールなど)	-	80.5	91.7	<p><b>【第1回 (7月10日)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メルマガ・学年だよりなど広報の中心に据えているものが学年により異なるということだが、それらが互いに補完できるとなるとよい。</li> <li>・まじめな、似た価値観の生徒が集まる学校となっており、安全・安心が維持されている。</li> <li>・アドミッションポリシーは、中学生にわかりやすいものになっているか。</li> <li>・英語専門コースの授業をコース外の生徒も進路に応じて選択でき、評価できる。</li> <li>・「チャレンジ」という言葉は、覚悟を持って使っていく言葉であるということを経験から指導していく必要がある</li> </ul> <p><b>【第2回 (11月11日)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で、生徒自身に表現させるなどアクティブラーニングに若い先生が取り組んでいるのは、良いことだが、教科に偏らずに学校全体にいかにも広げるか検討してほしい。</li> <li>・挨拶運動は大切で、生徒全体に意識がある今継続していくことが必要。</li> <li>・クラブ体験は、津田校の重要な広報特色で、参加方法などにさらに工夫してほしい。</li> <li>・一般入試まで粘る生徒が増えているのは、良い傾向だ。</li> </ul> <p><b>【第3回 (1月25日)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への情報発信は、ニーズを捉えてマンネリ化にならないよう工夫してほしい。</li> <li>・30周年式典発表での素晴らしい生徒の取組をもっと広報に活用すべきである。</li> <li>・アクティブラーニング導入によって苦手科目克服の例もある。「プチ・アクティブ」からはじめるなど多くの先生が取り組みをはじめ易くする環境や工夫が大切ではないか。</li> <li>・基礎学力向上での取り組みの成果は、明らかに出ている。その後の部分の検証も必要。</li> </ul>
内容	生徒	保護者	教員																																						
学校への満足度 (学校は楽しい・通わせてよかった)	76.4	95.8	-																																						
授業への評価 (わかりやすい・学力が伸ばされている)	73.9	89.7	-																																						
家庭学習促進への評価	-	86.6	-																																						
進路指導への満足度 (役立つ・満足・制度整備)	77.0	90.6	91.7																																						
生徒指導への評価 (ルールを守っている・声掛けしている)	94.1	96.7	87.5																																						
人権教育への評価 (意識が高まった・きちんと指導)	79.2	91.5	-																																						
部活動・行事への評価 (盛ん・熱心に指導)	88.1	93.0	91.7																																						
教育相談への評価 (相談できる先生・体制整備)	52.6	-	91.3																																						
広報・情報提供への評価 (HP・メールなど)	-	80.5	91.7																																						

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自信を持てる学力の向上と進路実現	<p>将来構想委員会による学力及び学習状況の分析と提言を全組織が連携し取り組む</p> <p>(1) 基礎学力の定着と活用型学力 ア 自信を持てる学力の向上 イ 家庭での学習習慣の確立 ウ 各種検定受検者の増加 エ 国際交流活動の推進</p> <p>(2) 学年進行により志を高く持たせる生徒に合った進路実現の保障 オ 進路指導部と学年の連携を強化し組織的な進路指導を展開する。</p>	<p>ア【将来構想・校務検討委員会重点事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニング、ICT活用を積極的に導入し授業形態を工夫し授業改善する。</li> <li>・教科のスタンダードを策定し、教科指導の基本指針とする。</li> <li>・英語科英語専門コースを中核として授業改善に向けて、授業見学など相互研修を行う。</li> <li>・授業勉強会を継続し、成果を全体で共有する。</li> </ul> <p>イ【将来構想・校務検討委員会重点事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習や週末課題などの指導を組織的にを行い、家庭での学習習慣の確立につなげる。</li> </ul> <p>ウ【将来構想・校務検討委員会重点事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時より英語検定等について生徒の意識を高めて受検者を増やす。また受験者への指導を充実させ合格者を増やす。(H26年度438名)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外からのスタディツアーを受け入れるなどによりコミュニケーション力を高める。</li> <li>・米国派遣事業を継続する。</li> </ul> <p>オ【将来構想・校務検討委員会重点事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と学年の連携をより密にして、1年生の早い段階からの進路指導を充実させ、明確な目標を持たせる指導をしていく。</li> <li>・教育産業の基礎学力調査の結果を分析し過去のデータを活用して進路指導を展開する。</li> <li>・進路指導の「ロードマップ」を各学年が活用可能なように整備する。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングを各授業全体の10%の時間で実施</li> <li>・自己診断「授業はわかりやすい」75%</li> <li>・授業アンケート「授業展開の工夫」3.0以上</li> <li>・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2以上</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休業中、週末課題等の提出率9割以上</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英検受検者数、合格率とも前年比10%以上増</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディツアー1校受</li> <li>・海外派遣事業7名実施</li> </ul> <p>オ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に関する生徒の満足度を全校平均で85%以上</li> <li>・就職希望者100%内定</li> <li>・公募制入試、一般入試受験者数の前年比増</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングは、各授業全体の32%の時間で実施。生徒の主体性も高まっている。(◎)</li> <li>・自己診断「授業はわかりやすい」は73.9%に留まり目標に1ポイントおよばなかった(△)</li> <li>・授業アンケート「授業展開の工夫」3.1(○)</li> <li>・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休業中、週末課題等の提出率100%(◎)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英検受検者数は、1年生において自発的受験に期待する方針で臨んだことから、438人(H26)→229人(H27)と大幅な減少を見せた。合格率については、3級10%増・準2級8%増・2級9%増となった。(△)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾の高級中学1校の教育旅行を受け入れ交流を行った。生徒は授業・クラブで積極的に交流し満足度の高いものとなった。(◎)</li> <li>・米国への2週間の研修旅行に8名参加予定。希望者が多く選抜を行った。(◎)</li> </ul> <p>オ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に関する生徒の満足度は平均77%に留まった。早い段階からの取り組みが必要。(△)</li> <li>・就職希望者100%内定(○)</li> <li>・公募制入試受験者3.6%増、一般入試受験者146%増。進路実現に向け意欲的に取り組む意識が上昇(○)</li> </ul>
2 統一感のある生徒指導により、規律ある、かつ安全安心で楽しい学校生活の保障	<p>(1) 規範意識の醸成 ア 遅刻と服装指導、授業規律を徹底する</p> <p>(2) 生徒相談体制の更なる充実 イ 不登校や転退学生徒の減少させるため、教員の情報共有を進める</p> <p>(3) あいさつの励行と地域交流活動 ウ 生徒主体の活動を発展させ、地域の信頼を得、生徒の自信を高める</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導、服装指導の体制を継続するとともに内容を工夫し、規範意識の向上を図る。</li> <li>・年間を通して授業規律を徹底し、落ち着いた学習環境を維持して、学習効果を高める。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒相談体制を継続し、相談委員会を週1回開催し、教職員の情報共有ときめ細やかな対応により、生徒にとって安心な学校となる。</li> <li>・生徒の変化の気づきを高めるため、事例研究会等の教職員研修を行う。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に起因するトラブルにより、退部や不登校にさせない精神的ケアを行う。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつの津田」と言われることにより、生徒が学校に誇りを持てるようにする。</li> <li>・学校内外の環境整備、緑化活動に生徒を参加させ、環境整備への意識と愛校心を高める。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートによる規範意識を95%以上に</li> <li>・年間遅刻件数1350以下</li> <li>・自己診断生徒アンケートによる学習環境への評価をともに80%以上</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の肯定率を5ポイント上げる。</li> <li>・不登校生徒、中途転退学者数の前年比減</li> <li>・年度途中の部活動退部者数の前年比減</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断生徒アンケートの「あいさつをしている」80%以上</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートによる規範意識は94.1%で0.9ポイント届かなかったが、高い意識は維持している(△)</li> <li>・年間遅刻件数998件。1年生は学年月間合計が1ケタで高い意識が維持されている(3/15現在)(◎)</li> <li>・自己診断生徒アンケートにおける「落ち着いた学習環境が整っている」は67.3%となった。アクティブラーニングでは「落ち着いた」との評価はされにくく評価要素の検討も必要(△)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の肯定率は4.3ポイント上昇。目標に0.7ポイント届かなかったが上昇はしている。(△)</li> <li>・不登校生徒は増減なし。中途転退学者数は53%減(◎)</li> <li>・年度途中の部活動退部者数は6%減少(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断生徒アンケートの「誰にでもあいさつをしている」は74.3%に留まった。ただし、校内では実現している。(△)</li> </ul>
3 愛校心あふれる学校づくり／4 広報活動	<p>(1) 伝統ある学校行事により主体性と協調心を育成する ア 生徒主体の運営の推進</p> <p>(2) 生徒が主体的に活躍できる部活動の振興 イ 魅力ある部活動とするための全校的とりくみ ウ 中学校との交流促進</p> <p>4 学校広報活動</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事企画、運営を学年進行により、生徒主体となるようにサポートを工夫する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動が社会性やリーダーシップ、情操を育む場となるようサポートする。</li> <li>・これまでの体験入部週間を継続するとともに、顧問、担任などが教育相談組織とも連携するなどして、退部者を減少させる。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の「部活動体験会」を継続する。</li> <li>・英語専門コースの生徒が、学校説明会などで発表したり、地域の小中学生にとっての目標となるよう小中学校のイベント等へ出向く。</li> </ul> <p>4 独自の学校説明会や中学校訪問説明会実施</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートによる学校行事への満足度を85%以上に</li> <li>・1年生の加入率70%</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動」体験会などを1,2学期で5回実施</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流に参加する中学生数前年比増(約450名)</li> <li>・地域の小中学校が開催する英語スピーチコンテスト等のイベントに本校生を派遣する。</li> </ul> <p>4 60校(80回) 中学訪問</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートによる学校行事への満足度88.1%(○)</li> <li>・1年生の部活動への加入率は65%に留まった。体験入部期間の雨天が大きく影響した(△)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動」体験会などを1,2学期で16回実施(◎)</li> <li>・交流に参加する中学生数は532人で18%増となった。(◎)</li> <li>・地域の中学校が開催する「English Festival」に生徒を派遣した。また、校内においても全校生徒にそのスピーチを披露した。(◎)</li> </ul> <p>4 学校説明会を14回、中学校訪問を59校(83回)実施した。(○)</p>